

# 5月の農作業管理

指導販売課

柑橘

一果入魂・・・こだわりを持った果実生産に取り組みましょう

## 作業1 開花期の防除の徹底

近年、原料柑として出荷されるもののなかに、灰色カビ病の被害果が多くみられます。また、せとみ（ゆめほっぺ）などは種が問題となる品種であり、開花期の訪花昆虫防除が重要となってきます。高品質果実および正果率アップのために、開花期の防除は必ず行いましょう。

品種および園地ごとの開花状況を確認しながら適期に防除を行いましょう。

時期	病害虫	防除薬剤
開花2～3分咲 (5月上・中旬頃)	訪花昆虫	モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍
満開～落弁期 (5月中・下旬頃)	灰色カビ病 チャノホコリダニ ミカンサビダニ	フロンサイドSC 2,000倍
5月下旬 (発生園又は発生が心配される園)	かいよう病 展着剤	IC ボルドー66D 80倍 アピオンE 1,000倍

※ 樹勢回復又は緑化促進のために開花期防除に尿素 500倍とリンクエース 2,000倍で混用散布しましょう。

※ IC ボルドーには尿素は混用できますが、ポン液肥は混用できません。

## 作業2 夏肥の施用

夏肥は、連年安定生産（隔年結果是正）には欠かせない肥料です。また新梢の充実や、果実の肥大促進のためにも重要な肥料です。必ず施用しましょう。

(10a 当り)

品種系統	施用時期	柑橘1号	柑橘5号
中生、普通 完熟早生	5月下旬～ 6月上旬	6袋	8袋
高糖系 (青島、大津4号他)	5月下旬～ 6月上旬	8袋	10袋
中晩柑 (せとみ、伊予柑他)	5月下旬～ 6月上旬	6袋	8袋

## 作業3 苗木の管理

追肥の施用

	施用時期	肥料銘柄	施用量
1年生	5月上旬	柑橘有機配合1号	60～70g / 1樹当たり
2年生			70～90g / 1樹当たり

- 支柱立てをしていない園は早急 to 実施しましょう。
- 弱い芽を間引き、方向のよい強い芽を残す。1樹につき5～6本に整理する。
- 1ヶ所から出ている芽を1本に芽かきする。
- 春芽が8～10枚伸びた時点で新梢6～8枚残して摘心する。

## 落葉果樹

### 梅の管理

- 黒星病 灰色かび病防除…時期…5月上旬  
防除薬剤…ストロビードライフフロアブル2000倍
- アブラムシ…時期…5月中旬 防除薬剤…ダントツ水溶剤4000倍
- 摘果…5～10cmに1果程度残して摘果しましょう

### キウイフルーツの管理

#### ●花ぐされ病対策

薬剤防除 時期…5月上旬  
防除薬剤…アグレプト水和剤1,000倍＋ネオエステリン（展着剤）5,000倍  
環状剥皮 時期…5月上旬  
5mm幅で地際から60～150cmの主幹部に施しましょう

#### ●人工受粉

花粉の重量に対して石松子で4～10倍にして授粉しましょう

#### ●摘蕾 … 側花や奇形花、余分な蕾を除去しましょう

#### ●新梢の芽かきと誘引

余分な芽や遅れ花を除去し、1㎡に新梢を12～15本としましょう  
又、日が良く当たるように誘引をしましょう

#### ●摘果 … 傷果や奇形果を摘果し、1㎡当たり30果程度としましょう

#### ●軟腐病防除

1回目(結実後)… トップジンM水和剤1,000倍＋ネオエステリン（展着剤）5,000倍  
2回目(6月下旬)… アリエッティ水和剤600倍＋ネオエステリン（展着剤）5,000倍

#### ●クワシロカイガラムシ防除

5月中旬…モスピラン顆粒水溶剤2,000倍＋ネオエステリン（展着剤）5,000倍

## 水稲

※一発肥を施肥する場合は、元肥は必要ありません

品種	基肥一発10a当たり	箱防除	田植期
コシヒカリ	ユーコート002 30～35kg/10a	ルーチンデュオ箱粒剤50g/箱 又は 箱いり娘粒剤 50g/箱	5月上旬～ 5月中旬
ひとめぼれ	ユーコート002 35～40kg/10a		5月中旬～ 5月下旬

- 植えつけ本数が多いと軟弱に生育し、病害虫の発生が多くなります。植えつけ本数は3～4本にしましょう。